

総合人間科学 英 語

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
准教授	1 人
講師（うち病院籍）	0 人（0 人）
助教（うち病院籍）	0 人（0 人）
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人（外国人教師）
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合計	3 人

2 教員の異動状況

中安 美奈子（教授）（H19.8.1～准教授、H25.4.1～現職）

Kuramoto, Christine D.（H25.4.1～現職）

O'Dowd, Gregory V.G.（外国人教師）（H14.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編（1 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	3 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編（1 編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編（0 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Nakayasu M: *Wilt Thou Be Lord of All the World?* Modals and Persuasion in Shakespeare. *Studia Anglica Posnaniensia* 49(1): 5-30, 2014. (ERIH: 10) (IF: 0.00)
 2. Nakayasu M: Modals, Speech Acts and (Im)politeness: Interactions in Shakespeare's Plays. *Studia Anglica Posnaniensia* 48(4): 5-33, 2013. (ERIH: 10) (IF: 0.00)
 3. O'Dowd GVG: 医科チューリアル教育(PBL)のモデル. *Models of PBL in Japanese Medical Universities. Reports of Liberal Arts*, Hamamatsu University School of Medicine 29: 45-60, 2015. (IF: 0.00)

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 鈴木みずえ, 山岸暁美, 玉田田夜子, 阿部慈美, 村田康子, 桑野康一, グレゴリー・オーダウド, 水野裕: 急性期医療における認知症高齢者のための看護実践の方向性: パーソン・センタード・ケアを目指した教育プログラムによる検討. *日本認知症ケア学会誌* 13(4): 749-761, 2015. (IF: 0.00)

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Kuramoto C, Kuramoto T: International Service-Learning in Nicaragua for Japanese Medical Students The IAFOR North American Conference on Education 2014, Official Conference Proceedings (ISSN: 2189-1060): 161-168, 2014.

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. 芦田ルリ, 倉本クリスティーン: ネイティブSPとの医療面接授業の一環として、新しい医学教育の流れ '14 春, 第 52 回医学教育セミナーとワークショップの記録: 31-51, 2014.

(2-2) レター

1. Kuramoto C, Ashida R, Otaki J: English-speaking SPs in Medical Education: The Motivation Factor. *医学教育* 45(6): 421-423, 2014. (IF: 0.00)

インパクトファクターの小計 [0.00]

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Kuramoto C, Nakayasu M: EMP at Work: Hamamatsu University School of Medicine. *Journal of Medical English Education* 13(3): 80-83, 2014. (IF: 0.00)

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 中安美奈子: シェイクスピアにおける説得のコミュニケーション—法助動詞を中心に. 金水敏, 高田博行, 椎名美智 (編), 歴史語用論の世界—文法化・待遇表現・発話行為, ひつじ書房, 東京, 189-215, 2014. (IF: 0.00)

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	6 件	(323 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 中安美奈子 (研究代表者) : 日本学術振興会科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 「中英語における時空間体系」 (110万円) (継続)
2. Kuramoto C: (研究分担者) : 日本学術振興会科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 挑戦的萌芽研究「外国人模擬患者を全国医学部の面接技能教育に活用する方法の研究」 (20万円) (継続)
3. Kuramoto C: (研究分担者) : 日本学術振興会科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 「自己主導型学習能力獲得のための、医学部6年一貫したモデルカリキュラム開発研究」 (20万円) (継続)
4. Kuramoto C: (研究分担者) : 日本学術振興会科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 「専門職 (教員・医師) 養成におけるサービス・ラーニングの教育効果に関する実証研究」 (40万円) (継続)
5. Kuramoto C: (研究分担者) : 日本学術振興会科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 「外国人模擬患者を活用した『英語を使って看護ができる看護師』養成プログラムの開発」 (3万円) (新規)
6. O'Dowd GVG (研究代表者) : 日本学術振興会科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 「日本の医科大学における問題解決学習の発達」 (130万円) (継続)

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	2 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	2 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件
(6) 一般演題発表数	7 件	1 件

(1) 国際学会等開催・参加

4) 国際学会・会議等での座長

1. Nakayasu M: 18th International Conference on English Historical Linguistics (ICEHL-18), Leuven, Belgium, July 2014.
2. Nakayasu M: 17th World Congress of the International Association of Applied Linguistics (AILA World Congress 2014), Brisbane, Australia, August 2014.

5) 一般発表

口頭発表

1. Nakayasu M: How did Chaucer Regulate Space and Time? Pragmatic Analysis of Middle English Spatio-temporal Systems. 17th World Congress of the International Association of Applied Linguistics (AILA World Congress 2014), Brisbane Convention & Exhibition Centre, Brisbane, Australia, August 2014.
2. Nakayasu M: Spatio-temporal Systems in Chaucer. 18th International Conference on English Historical Linguistics (ICEHL-18), KU Leuven, Leuven, Belgium, July 2014.
3. Nakayasu M: *Weep Now Namooore; I Wol Thy Lust Fulfillle*: Towards a Sociopragmatic Analysis of the Spatio-temporal Systems in Chaucer. 1st Poznań Historical Sociopragmatics Symposium (PHSS 2014), Adam Mickiewicz University, Poznań, Poland, May 2014.
4. Kuramoto C, Kuramoto T: International Service-Learning in Nicaragua for Japanese Medical Students, North American Conference on Education, Providence, Rhode Island, USA, September 2014.
5. O'Dowd GVG: What Japanese Students Can Learn from Foreign Students about PBL, 第40回全国語学教育学会年次国際大会, つくば国際会議場 (茨城県つくば市), November 2014.

ポスター発表

1. Nakayasu M: Bridging the Gap: Using a Scientific Journal as Content at a Japanese Medical University. 17th World Congress of the International Association of Applied Linguistics (AILA World Congress 2014), Brisbane Convention & Exhibition Centre, Brisbane, Australia, August 2014.

2. O'Dowd GVG: Black Swan Theory and PBL in Japanese Universities. 第40回全国語学教育学会年次国際大会, つくば国際会議場(茨城県つくば市), November 2014.

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. Kuramoto C: Shimane University, invited lecture: Nicaragua Service Learning presentation, July 2014.
2. Kuramoto C: Shimane University, invited lecture: 白熱教室: A Heated Discussion in English II. Japan's Low Birthrate and Aging Society, July 2014.

3) シンポジウム発表

1. Kuramoto C: 第52回医学教育セミナーとワークショップ in 秋田, May 2014.

5) 一般発表

1. 中安美奈子: 時空を遡る—チャーターの時空間体系を分析して—. 第13回ひと・ことばフォーラム特別公開研究会「言語、言語意識の変容」, 学習院大学, March 2015.

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

1. Kuramoto C: Japan Association of Medical English Educations' Examination for Proficiency of English for Medical Purposes (PEMP), editor (IF: 0.00)

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Kuramoto C: Journal of Medical English Education (Japan) 1回.

9 共同研究の実施状況

	平成26年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成26年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 中英語における時空間体系 (中安美奈子)

本研究の目的は、中英語における時空間体系を歴史語用論の視点から体系的に分析することである。時空間体系には語用論的なファクターが密接に関わっているにもかかわらず、歴史的なデータにおいては、語用論的な分析はまだまだ不十分であると言わざるをえない。時制や人称代名詞といった時空間に関する文法範疇や形式に着目し、言語行為等のミクロなレベルにとどまらず、談話等のマクロなレベルに踏み込んだ分析を行い、こういったファクターが相互にどのように関連しているのか、また、談話においてどのように展開するのかについて検討した。

2. Corner of Love Japan (USAの医療活動NPO) の日本代表 (学生をニカラグアに引率するため) (2009年2月より現在) (Christine D. Kuramoto)

科研C「専門職 (教員・医師) 養成におけるサービス・ラーニングの教育効果に関する実証研究」の共同研究者として国際サービス・ラーニング in Nicaraguaを本学の授業 (1単位) として実施している。In relation to this project I also gave two 90 minute lectures explaining the service-learning medical missions to Nicaragua to 2nd year medical students at Kyushu University (10/30/2014) in their Global Medicine course and a one hour lecture (11/19/2014) to the members of the 2nd Department of Internal Medicine and some students. These lecture informed the audiences about the situation in San Ramon Nicaragua and the medical clinics held by NPO Corner of Love. A question and answer time followed each lecture.

3. 日本の医科大学における問題解決学習の発達. The Evolution of PBL in Japanese Medical Universities (2012年5月より現在) (Gregory O'Dowd)

(科研 C) 本研究の目的は、日本ではチュートリアル教育と呼ばれる、PBL (プログラム・ベース・ラーニング) 教授法についてである。日本の医科大学へカリキュラムとして導入されて以来、過去 20 年間における進化と現在の日本での PBL モデルについての検討である。2014 年は日本の医科大学でのチュートリアル教育に関する情報やデータの収集を継続した。佐賀医大と東京女子医大の PBL チュートリアルスタイルの方向性を検討し、収集したデータをオーストラリアの医療カレッジで収集したデータと比較した。その収集された情報をもとに、日本のチュートリアル教育コーディネーターと議論し、意見集約した。3 つの研究論文は、収集したデータを使用して書かれている。二つの発表は、つくば JALT 国際会議で行った。

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道